

巻頭言

知多厚生病院

森本 和宏

目標（ゴール）設定雑感

辞書（ジーニアス英和辞典）を引くと、purposeは「目的、目標」をあらわす最も一般的な語で、aimは狙いを定めた具体的な「目標」、goalは長期間の努力の結果達成される「目標」とある。これからするとリハ的にはgoalという言葉が合っているように思える。

我々の仕事は、対象者の概要を評価した上で、中・長期目標を立て、それに向けて現状を把握した上で、今取り組まなければいけない短期目標を設定し、計画を立案する。そういう思考で、今までやってきた。長期目標は意識してきた。しかし、他の職種と長期目標について話すと、なんだかしっくりこない。急性期に身を置いている医師や看護師は目の前に起きていることに対応することが求められて、長期の目標を話してものってこない。急性期に関わる施設では、急性期からの脱出という目標が決まっているからかもしれない。病期ごとに施設が分かれている現在、それぞれの目標が決まっていて、長期目標は意識しないのだろうか。意識するのは自分の施設から離れる時の中期目標なのかもしれない。

最近では、長期目標という言葉さえ、あまり聞かれなくなったような気がする。業務改善のためにPDCAサイクルが提唱され、その中でplanは「目標設定しそれを具体的な行動計画に落とし込む」とある。ここでの目標は短期目標なのだろう。話は逸れるが、短期目標の究極は、その日の訓練の目標を立てられること。そして、それを達成させる訓練ができた時は、心の中でガッツポーズを取る。理学療法のおもしろみといえる。ただ、治療としての理学療法はそれで良いかもしれないが、リハとしての理学療法では、やはりリハ的な長期目標を意識した上でチームとしての協働が必要であろう。

京都大学の山中伸弥教授が、ポスドク時代の研究所長から、研究者としての人生を成功するためには「VW」が大切だと教わり、今でも大切にしていると語っていた。Vはvisionで、Wはwork hardだ。「目的を、ビジョンをはっきり持って、そのために一生懸命働く」という。どっちが欠けてもだめだが、日本人はハードワークが得意で、夜遅くまで働き、休日も働いている。しかし、油断するとビジョンを失っている。

少し大げさかもしれないが、人生を歩むのにもリハ的な思考が役に立つように思える。理学療法士として、一組織人として、一個人として将来を思い描き、そのための現在に集中する。皆さんはどんな目標を描いているのでしょうか？